

データサイエンスセンター

GRIPSにおけるデータサイエンス教育

データサイエンスリテラシーは、21世紀の政策立案者にとって不可欠なものとなりつつあります。そのため、本学の学生全員が現実データの分析を行うための幅広いデータサイエンス能力を身につけることが理想的です。現在、本学ではデータサイエンス教育を強化するため、カリキュラムの再編成を行い、データサイエンスの指導により多くの教員を配置するよう取り組んでいます。具体的には、データサイエンス教育のコア科目として、「データサイエンス基礎」と「実践データサイエンス」を設置し。そのほか、計量経済学、オペレーションズ・リサーチ、地理情報システムなど、データサイエンスに関連する多くの科目を開講しています。また、政策研究データサイエンス(DS)認定証制度を通じて、学生の皆さんのデータサイエンスへの関わりを奨励しています。(詳細は以下をご覧ください。)

https://www.grips.ac.jp/jp/education/nd_certificate/certificate_ds/

量的分析を含む政策立案を行う場合、これらの科目の受講は大変有意義なものとなります。これまでも、研究能力の高さを示す貴重で興味深いデータの収集に成功しながら、データ分析のスキル不足のために単純な記述分析にとどまってしまうケースがあり、これは学生本人だけでなく、本学にとっても大きな機会損失となり得ます。このような観点から、研究においてデータの使用を考えている場合は、本学での学びの初期段階よりデータサイエンスに慣れ親しむことが極めて重要です。

データサイエンスセンター

データサイエンスのスキルを身につけることは、運転免許取得のために運転の仕方を学ぶことに例えられます。つまり、誰にでも可能なことではあるものの、データサイエンスの授業で集中的なトレーニングを受けるだけでは十分ではありません。実際にコンピュータ・プログラミングやモデリングの継続的な経験が併せて必要であり、自身のデータを用いた習得が望まれます。したがって、本学での学びを通じて、データ分析を日常的な活動として繰り返し

行うことが理想的であり、それにより、「単位以上のもの」を得ることができます。

このようなデータサイエンスへの関わりを後押しするため、本学では2022年4月にデータサイエンスセンター(CDS)を開設しました。センターの目的は、学生がデータサイエンスを学び、知識を深め、スキルを磨くことを支援することにあります。センターの教員は、所長の土谷隆教授のほか、ロベルト・レオン・ゴンザレス教授、諸星穂積教授、竹之内高志教授の3名です。

センターは5階のC505室で、講義室A-Hに面した廊下の突き当たりにあります。センターの主な目的は次のとおりです。

- (1) データサイエンス関連講義のフォローアップ
- (2) データサイエンスを研究に活用する学生・研究者からの相談受け付け
- (3) R言語、Stata等のデータサイエンス用ソフトウェアの使用方法、データサイエンスの理論的側面を十分に深く理解するために必要な数理のトレーニング
- (4) 学内外のデータサイエンスに関する共同研究の推進、関連シンポジウムの開催
- (5) 本学のデータアーカイブスの整備

センターの受付時間は平日13時20分～18時10分です。親しみやすい雰囲気の中で、教員や学生相談員がプログラミング、統計モデリング、機械学習に関するどのような質問にもお答えします。また、皆さんのデータサイエンス学習をサポートするため、コンピュータ・プログラミング、統計学、機械学習、関連する数学に関する小規模で気軽に参加出来るワークショップを開催しています。

最後に、センターのホームページ(下記URL)もぜひご覧ください。データサイエンスの学習に役立つヒントや情報を掲載しています。

<https://www.grips.ac.jp/jp/education/datasciencecenter/>

プロフェッショナル・コミュニケーションセンター

プロフェッショナル・コミュニケーションセンター（CPC）は、学生及び教職員を対象に、多様な交渉相手と生産的なコミュニケーションを行うために必要な、職業人としての効果的なコミュニケーション・スキルと能力を身につける支援をしています。そのために、英語と日本語のプロフェッショナル・コミュニケーションが必要となる場面におけるさまざまな指導、サービス、サポートを提供しています。

当センターの教員は、高度な学術的トレーニングと長年の専門的経験を積んだ、プロフェッショナル・コミュニケーション、専門分野のライティング、言語学習・教育の専門家であり、その多くが博士号を持ち、学術・研究業績も高く評価されています。教員の専門分野は、経済学、政治学、公共政策、教育学、心理学、応用言語学など多岐にわたります。

当センターでは、教育理論と実践における広範な学識をもとに、エビデンスに基づくカリキュラム開発と指導を推進し、教育と学習におけるベストプラクティスを確立するとともに、日本のみならず世界でも優れたセンターとして認められるよう努めています。

英語と日本語による総合的なアカデミックライティング・プログラム

アカデミックライティング・プログラムは、大学院で研究論文を書く上で、また学術的な価値観と活動方法を身につける上での基礎となります。

本プログラムの目的

- ・ 本学の全プログラムにおける一貫した学術的効果の最低許容基準の明確化
- ・ 学生が目標とする言語コミュニティと交流する機会の促進
- ・ 本学におけるポリシーペーパー、学位論文、博士論文の執筆支援

プログラムには、以下の要素が統合されています。

- ・ 年度開始時の学生のアカデミックライティング能力の評価
- ・ 剽窃防止のための文章の借用についての指導とガイダンス
- ・ 年間を通じたアカデミックライティングの講義
- ・ アカデミックスキルに関するワークショップやライティングに関する幅広いトピックを扱うセミナー
- ・ 英語と日本語での研究計画書、学位論文、最終論文の執筆の個別指導
- ・ 当センターの教員が作成し、学生の自習、ガイド付き学習、研究用にカスタマイズされた、アカデミックライティングや言語学習に関するハンドブック、ガイドブック、その他の教材

プロフェッショナル・コミュニケーション・スキルプログラム

学生のプロフェッショナルとしての優れたコミュニケーション・スキルの育成に重点を置き、異文化コミュニケーションを促進するとともに、日本人学生と留学生との交流の機会を提供します。現在以下の講義等を行っています。

- ・ プレゼンテーション、交渉、プロフェッショナルライティング、ビジネスライティング、助成金申請書の作成、パブリックスピーキングなど、英語と日本語によるプロフェッショナル・コミュニケーションのあらゆる側面に関する単位認定科目および単位認定外科目
- ・ 政策文書の執筆、学術研究、近代日本の歴史・文化・社会、異文化コミュニケーションなど、幅広いテーマについて英語と日本語による専門的なコミュニケーション・スキルを学ぶミニ講義、セミナー、ワークショップ
- ・ プロフェッショナル・コミュニケーション、専門能力開発、言語学習、日本の伝統文化を含む日本文化など、さまざまなトピックについて英語と日本語で行われる特別イベント

編集・校正サポート

本学の教員や博士課程の学生を対象に、研究成果の発表や専門分野での利用を目的とした原稿作成のサポートを行っています。具体的には、編集、校正、言語サポートサービスのほか、学会発表の専門トレーニングなどを提供しています。

- ・ 言語学習対策、学習スキル、その他自律的な学習における重要な分野のワークショップ
- ・ 日本人学生と留学生が関心のあるテーマについて話し合うディスカッション・グループ
- ・ 言語スキルの向上に関心のある人のための語学交流

コミュニケーション・ラウンジ

学生の自律的な学習を促し、優れた学習者に必要なスキルとリソースを学生に提供するとともに、日本人学生と留学生が言語、文化、学問、そして特定の関心事について交流ができる中心的な場を設けています。ラウンジでは、以下のアクティビティを提供しています。

受付時間と予約

当センターでは、予約なしで相談を受けられる時間を定期的に設けています。英語のアカデミックライティングに関しては C507 室で相談を受けており、Eメール (cpc@grips.ac.jp) での予約が可能です。日本語の学習に関しては C502 室で相談を受けており、Eメール (cjll@grips.ac.jp) での予約が可能です。